

福井県立美術館ボランティアの会

# 30年のあゆみ

30 Years of Memories: Fukui Fine Arts Museum Volunteer Association



今井俊介「untitled」  
平成30年 福井県立美術館蔵  
福井県立美術館ボランティアの会寄贈

# 福井県立美術館ボランティアの会 30周年に寄せて

福井県立美術館ボランティアの会

代表 高井 豊

本会が設立されてから30年という節目を迎えるにあたり、これまで活動を支えてくださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

来館者の多様なニーズに応え、ボランティアならではの視点できめ細かな案内や情報をお届けしてきた日々は、県民に「愛され親しまれる美術館」をめざす私たちの歩みそのものでした。会員一人ひとりが自発的に思いを寄せ、来館された方々に心地よい時間を過ごしていただくことを喜びとして積み重ねてきた活動こそが、今日の私たちの礎となっています。

この30年の間に、美術館を取り巻く環境は大きく変化しました。しかし、アートを通じて人と人がつながり、地域に新たな発見や喜びが生まれるという根本の価値は、今も変わることがありません。私たちボランティアの役割も、作品解説や来館者サポートにとどまらず、年齢や社会経験の違いをこえて多くの方々と「夢」を共有し、美術館と地域を結ぶ架け橋として、より多様で創造的な広がりを見せています。

その象徴ともいえるのが、企画展「大どろぼうの家」展に合わせて実施した応援企画「かくされたハートをさがせ！ハートどろぼう大作戦」です。福井駅周辺を舞台に、子どもから大人まで多くの方々が参加し、街に散りばめられた“ハート”を探しながらアートの楽しさに触れていただきました。美術館の外へと活動を広げ、地域の皆さまとともに展覧会を盛り上げることができたことは、私たちにとって大きな喜びであり、今後の可能性を示す貴重な経験となりました。

30周年を迎えた今、私たちは新たな一歩を踏み出します。これからも、美術館を訪れるすべての方にとって心地よい時間と発見を届けられるよう、そして地域に開かれた美術館づくりに貢献できるよう、会員一同力を合わせて歩んでまいります。

この活動は社会や人のためだけでなく、私たち自身が「豊かに生きていくため」の大切な営みでもあります。これからもその思いを胸に、未来へ向けて活動を続けてまいります。

最後に、これまで支えてくださった皆さまに改めて深く感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

福井県立美術館

館長 田中 和弘

福井県立美術館ボランティアの会が、このたび、結成30周年という大きな節目を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。「来館者の多様化するニーズに応え、県民に愛され親しまれる美術館を目指す」という理念のもと、長きにわたり当館と来館者との橋渡し役として支え続けてくださった皆様に、改めて深く感謝いたします。

新聞記事の整理や図書管理など、長年積み重ねてこられた丁寧な取り組みは、今や当館にとって大切なアーカイブとなっています。今後これらをさらに整備していくことで、当館を特徴付ける貴重な資料となることでしょう。また、昨年は、30周年記念事業として、ワークショップの運営補助や展示解説など、様々な形で力を尽くしていただきました。特に街中でのクイズラリーは、これからの美術館に必要な「地域との協働」を体現する、非常に大きな意味を持つ活動となりました。

当館がこれからも県民の皆様とともに歩み、多様な体験を提供する場として在り続けるためには、ボランティアの皆様の情熱とお力添えが不可欠です。今後とも変わらぬ御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

福井県立美術館

副館長(学芸) 西村 直樹

私のフェイスリットムービーに、ジム・ジャームッシュの「ダウン・バイ・ロー」という映画があります。

この映画の登場人物ジャックとザックはもともと他人同士ですが、長旅を共にするなかで、互いに古くからの友人と旅をしているような不思議な感情が芽生えます。

そして三叉路に立ち別々の道を歩むことになったジャックとザックは、互いの上着を交換してそれぞれの幸運を祈る、という私の好きなラストシーンへと繋がっていきます。

30周年を迎えられたボランティアの皆さんと私達美術館員は、長旅を共にしたジャックとザックよろしく、美術館という乗り物に乗って、素敵なアートを探して旅する長年の友人のように感じられます。

ボランティアの皆様、長きにわたって美術館に寄り添い、美術館を支えていただき、本当にありがとうございました！

これからも一緒にアーティストックな旅を続けていきましょう!! (笑)

ボランティアの会の設立30周年にあたり、ボランティアの皆様との思い出を書きとめたいと思います。

当方が学芸員1年目の夏に担当した展覧会は奇しくもボランティア10周年を記念した、ボランティアとの共催展「びっくりぎょうてん!紙わざの世界展」でした。一緒に出張し、展覧会の打ち合わせを行い、会場の飾りつけから毎週末のワークショップを共にこなし、助けられました。



平成19(2007)年の「あそびにおいてよ!動物ファンタジーへ」もナイトミュージアム体験を企画した思い出深い展覧会です。館内探検中にカーニバルの女王に会い、そのままサンバカーニバルに巻き込まれるという、若気の至りの設定をよく館が見逃してくれたと思います。協力いただいた福井大学の学生さん、妖艶で華麗なダンスを披露してくれた明宝ダンススクールのお姉様たち、そしてサポートに徹してくれたボランティアさんたち、皆様のお力添えでやり切ることが出来ました。準備の段階で女王役のボランティアのKさんとダチョウの羽根を染め、背負い羽根を手作りしたのも懐かしい思い出です。

本年度の「大どろぼうの家」でも、様々なイベントを主催いただき、中でもボランティアの皆様のアイデアを反映したスタンプラリーは大好評でした。一人の知恵や出来ることは限られていますが、ボランティアさんによって世界が広がるのです。

一時は100名近い会員を有し、インフォメーションでの接客、当館コレクション展での解説ボランティアの活動など、その活動は多岐に渡りましたが、平成28(2016)年の20周年を機に従来の活動を見直し一旦解散しました。同年4月から新たな体制で活動を再開し、現在会員は22名です。美術館に集まる情報の整理を担う「新聞班」の活動を核とし、親子鑑賞会などでのちょこっと解説(通称ちょこボラ)や、ワークショップのお手伝いなどをして頂いています。形や人は変われども、30年間脈々と続けられた資料整理、新聞の美術情報切り抜きなどは膨大な知の集積となっています。

これまでありがとうございました。そして今後とも、変わらぬお力添えと応援をお願いいたします。

※本稿は令和7年6月発行「美術館だより Vol.180」『祝 福井県立美術館ボランティアの会30周年 ボランティアさんとの思い出』を加筆修正しました

30年間にわたり、福井県立美術館を支えてくださったボランティアの皆さまに、心から感謝申し上げます。

令和5年に開催したコレクション展「奇才!オノレ・ドーミエ」では、消しゴムはんこ作りのワークショップにご協力いただきました。当日は一人ひとりに寄り添いながら、丁寧に作り方を伝えてくださいました。参加者がはんこを完成させた瞬間の笑顔や、喜ばれる姿は今も記憶に残っています。おかげさまで、ワークショップでは皆さんに楽しい体験を届けることができました。ボランティアの皆さまのご活動は、美術館と来館者を結ぶ大切な架け橋となっております。これからもお力添えのほど、よろしくお願いいたします。

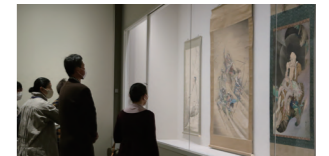


令和5年度開催「消しゴムはんこを作ろう!」の様子

福井県立美術館ボランティアの会、結成30周年おめでとうございます。ボランティアのみなさまには、日々の図書、新聞整理からイベント補助まで、様々にお世話になっております。特に令和3(2021)年に当館で開催した「ももきねの美清流の旅~日本画の巨匠と陶芸の人間国宝~岐阜県美術館名品展」、その2年後に岐阜県美術館で開催した「越山若水が育んだ美一福井県立美術館・若狭歴史博物館名品展一」では、岐阜県美術館のアートコミュニケーター「~ながラー」と交流し『ナンヤローネ アートツアー《Such Such Such》』という、これまでに無い形の教育普及活動を行うことができました。これも、みなさまの熱意の賜物と心より感謝しております。今後とも引き続きよろしくお願い申し上げます



令和3年度開催「ナンヤローネ アートツアー《Such Such Such》」の様子



令和5年度開催「ナンヤローネ アートツアー《Such Such Such》」の様子

福井県立美術館ボランティアの会創立30周年、心よりお祝い申し上げます。美術館は48年目、私は3年目。文字で見ますと、おお…圧倒的に先輩だ…と思います。

さて日頃密に関わっておりますのは新聞班・図書班の皆さままでして、学芸業務の中でそのお仕事ぶりにとっても助けられています。他にも、お会いする度にお声がけいただいたり、初めての解説会で緊張していると「私たちが練習台にしてくれていいから!」と緊張を和らげていただいたことなど、むしろこちらが支えられていると感じることばかりです。

いつも美術館を見守っていただきありがとうございます。そしてこれからもぜひ、よろしくお願いいたします。



# 福井県立美術館ボランティアの会 30年のあゆみ

1995年(平成7)	10月	福井県立美術館、ボランティアの募集を行う	
	11月	福井県立美術館ボランティアの募集要項説明会開催 要件 1. 美術と美術館に積極的な関心のある人 2. 高校生以上 3. 月2回以上ボランティア活動に参加できること 4. ボランティア育成講座を受講すること	
1996年(平成8)	11月	福井県立美術館ボランティアの募集要項説明会開催	
	1月	ボランティアの会設立、第1回ボランティア育成講座開催	
	3月	福井県立美術館内にボランティアルーム開室	
	4月	福井県立美術館ボランティアの会第1回総会開催(会員登録総数 132名)	
	7月	企画展の会場監視活動を開始(企画展「郷土の作家たち」)	
	8月	「親子美術講座」のアシスタントを行う(～平成12年)	
	9月	会報 創刊準備号 発行	
	10月	福井放送の「県民サロンー明日の福井を支えるカー」において活動が紹介される	
	1997年(平成9)	2月	ボランティアリーダー研修会。ボランティア活動の先進館である 三重県立美術館・徳川美術館、姫路市立美術館・兵庫県立美術館の見学および研修を実施
		4月	美術館ボランティアの会「会報」創刊(-11号) 第2回総会開催(平成9年度会員登録総数 104名)
6月		第2回全国博物館ボランティア大会参加(1名)	
7月		自主活動グループ登録 (会報発行、研修・講義企画、新聞スクラップ、図書・資料整理、来館者サービス)	
11月		大津生涯学習センター 27名との意見交換・交流会を行う	
1998年(平成10)		1月	第 29 回全国ボランティア研究集会参加(3名)
	4月	第 3 回総会(平成 10 年度会員登録総数 100名)	
1999年(平成11)	4月	第4回総会(平成 11 年度会員登録総数 80名)	
	9月	岐阜県立美術館サポーター24名来館、交流会(当館参加者11名)	
	10月	「ねんりんびっく '99 福井」に協力し、実行委員会よりボランティア協力感謝状が贈られる	
	12月	第3回全国博物館ボランティア研究協議会参加(1名)	
2000年(平成12)	4月	第5回総会(平成12年度会員登録総数 90名)	
	6月	解説ボランティア研修講座開始	

2001年(平成13)	4月	第6回総会(平成13年度会員登録総数88名、平成12年度活動総数 294名・延べ人数 2779名)
2002年(平成14)	4月	第7回総会(平成14年度会員登録総数 75名、平成13年度活動総数 299 日、延べ人数 2416名)
2003年(平成15)	1月	解説ボランティアによるギャラリートーク開始(以来、テーマ展等で定期的に行う)
	4月	第8回総会(平成15年度会員登録総数 81名、平成14年度活動総数 302 日、延べ人数 2250名)
2004年(平成16)	4月	第9回総会(平成16年度会員登録総数 79名、平成15年度活動総数306日、延べ人数 2273名)
2005年(平成17)	4月	第10回総会(平成17年度会員登録総数 90名、平成16年度活動総数 305 日、延べ人数 1706名)
	8月	10周年記念 美術館共同開催「びっくりぎょうてん!紙わざの世界展」 (同時開催イベント:親子でつくろう!紙わざ、おりがみコーナー、会員小作品展、ミニコンサート)
	9月	「福井県民社会貢献活動奨励賞」受賞
2006年(平成18)	1月	10周年記念式典(県立美術館 佐々木緑館長より感謝状の授与) 10周年記念会員作品展を開催 「来館者に対する接客マナー講習会」講師 道端泰代氏
	3月	「10年のあゆみ」を発刊
	4月	第11回総会(平成 18 年度会員登録総数 111名、平成17年度活動総数 302日延べ人数 1947名)
	11月	研修旅行(京都国立博物館・京都文化博物館)
	4月	第12回総会(平成19年度会員登録総数 103名、平成 18 年度活動総数306日、延べ人数 2286名)
2007年(平成19)	6月	救急普及講習会 講師中消防署指導員2名
	11月	研修旅行(愛知県立美術館・徳川美術館)
	4月	第13回総会(平成20年度会員登録総数 98 名、平成 19 年度活動総数 297 日、延べ人数 1898名)
2008年(平成20)	6月	第60回全国植樹祭の開催に合わせ、美術館前庭に花のプランターを飾る
	10月	研修旅行(京都市美術館 京都国立近代美術館)
	4月	第14回総会(平成21年度会員登録総数 86名、平成20年度活動総数 291日、延べ人数 1785名)
2009年(平成21)	9月	研修旅行(京都市美術館 京都国立近代美術館)
	4月	第 15 回総会(平成 22 年度会員登録総数 79名、平成 21 年度活動総数 288 日、延べ人数 1747名)
2010年(平成22)	7～8月	企画展「愛のヴィクトリアンジュエリー展ー華麗なる英国のライフスタイルー」(15周年記念・同時開催 支援イベント:女王様に変身!ティアラと私の王朝風、つくれるよ! ミニ三輪車、アリスの部屋、ワイヤー アート作品展、ハーブ・フルート・電子ピアノのミニコンサート、ハンドベルのミニコンサート、シルバー アクセサリー創作教室、ヴィクトリアンケーキ、アロマハウスで午後の紅茶教室)
	8月	研修旅行(京都市美術館・滋賀県立近代美術館)
	4月	第16回総会(平成23年度会員登録総数 81名、平成22年度活動総数295日、延べ人数 1879名)
2011年(平成23)	7～8月	企画展「森と芸術ー美術と博物が語る森のひみつー」の関連企画「ふくいの子どもたちが描く 1000枚のふくいの森」コーナーの設置と県教育委員会文化課(現観光営業部文化課)所管の「ふ くいキッズミュージアム」事業(平成22年～)の協力を行う
	9月	研修旅行(京都市美術館・相国寺承天閣美術館)

2012年(平成24)	4月	第17回総会(平成24年度会員登録総数 87名、平成23年度活動総数 299日、延べ人数 1785名)
	9月	研修旅行(名古屋ボストン美術館 名古屋市美術館)
	12月	「平成24年度中日ボランティア賞」を受賞
2013年(平成25)	4月	第18回総会(平成25年度会員登録総数 75名、平成24年度活動総数286日、延べ人数 1827名)
	11月	研修旅行(金沢21世紀美術館・石川県立美術館)
2014年(平成26)	2月	芹川館長退官記念講演会
	4月	第19回総会(平成26年度会員登録総数 69名、平成25年度活動総数219日、延べ人数 1314名)
	7月	キッズミュージアム「ゴッホの絵を立体でつくろう!」補助(3回)
	10月	キッズミュージアム「文字アートをつくろう!」補助
	11月	研修旅行(神戸市立博物館・兵庫県立美術館)
通年	会員鑑賞会/美術に親しむ会(7回、講師:芹川貞夫、西村直樹、戸田浩之、佐々木美帆、椎野晃史)	
2015年(平成27)	1月	20周年を迎える
	4月	第20回総会(平成27年度会員登録総数 59名、平成26年度活動総数277日、延べ人数 1654名)
2016年(平成28) 平成28年度 総登録者数13名	2月	20周年の記念事業を行うと同時に従来の活動を見直し、インフォメーションでの来館者対応、監視業務を廃止
	3月	20周年記念式典(県立美術館 高嶋郁男館長より感謝状の授与)、20周年記念会員作品展を開催
	4月	「20年のあゆみ」を発刊
	7月	4月から新たな体制で活動を再開、美術館に集まる情報の整理を担う「新聞班」を基本とする
2017年(平成29) 平成29年度 総登録者数11名	8月	キッズミュージアム「回転のぞき絵(ゾートロップをつくろう)」「マイ名品バックを作ろう」補助
	10月	キッズミュージアム「ミニ屏風をつくろう」補助
通年	資料整理(新聞・図書資料)、教育普及補助、事務、その他	
2018年(平成30) 平成30年度 総登録者数18名、 活動日延べ人数250名	4、5月	キッズミュージアム「モネのマネ」補助(2回)
	8月	キッズミュージアム「ピカソも愛用?越前和紙による版画」「和紙の花をつくろう!」補助
	通年	資料整理(新聞・図書資料)、教育普及補助、事務、その他
2019年(平成31/令和元) 令和元年度 総登録者数18名、 活動日延べ人数322名	3月	美術館に今井俊介「untitled」2点を寄贈
	9月	ブロガーナイト補助
	12月	キッズミュージアム『岩佐又兵衛の「ほう居士図」ミニ掛け軸をつくろう!』補助
通年	資料整理(新聞・図書資料)、教育普及補助、事務、その他	
2020年(令和2) 令和2年度 総登録者数15名、 活動日延べ人数212人	1、2月	キッズミュージアム「モビールをつくろう!」リハーサル(2回)、補助(2回)
	6月	キッズミュージアム「アマビエカードで安全祈願」補助
	8月	キッズミュージアム「夏の葉っぱを叩いて染めて、素敵な手ぬぐいづくり」補助。 若狭歴史博物館でのキッズミュージアム「名作《落葉》のミニ屏風を作ろう!」補助
	通年	資料整理(新聞・図書資料)、教育普及補助、事務、その他

2021年(令和3) 令和3年度 総登録者数20名、 活動日延べ人数302人	4月	特別企画展で見どころを簡単に案内する「ちょこっと案内」の試行開始
	5月	「ウッドワン美術館名品展」で親子鑑賞デーを開催、「ちょこっと案内」(略称ちょこボラ)デビュー
	6月	ウエルカムスタッフ班を新設、募集
	10月	岐阜県美術館の鑑賞プログラムで、アートコミュニケーション作品の《SuchSuchSuch》を「岐阜県美術館名品展」の作品を対象に、岐阜県美術館アートコミュニケーター(愛称:〜ながラー)とコラボで開催(2回)
11月	岐阜県美術館イベント見学会(7名参加)	
通年	資料整理、新聞・事務、その他	
2022年(令和4) 令和4年度 総登録者数22名、 活動日延べ人数324名	5月	「ザ・美人画展」の親子鑑賞デーに協力
	9~11月	「今、あなたにつたえたい ミリオンセラー・ロングセラーの絵本たち」展で、「わが子への読み聞かせと美術館たんけん」、「絵本の読み聞かせ会」、「誰かに贈りたくなる仕掛けカードづくり」への協力・補助
2023年(令和5) 令和5年度 総登録者数22名、 活動日延べ人数240名	2月	コレクション展「奇才!風刺画家オル・ドーミエ」で「消しゴムはんこを作ろう!」に協力
	5月	コレクション展「ちいさい おおきい」展の親子鑑賞会に協力(2回)
	11月	「越山若水が育んだ美一福井県立美術館・若狭歴史博物館名品展一」(岐阜県美術館)のアートコミュニケーター募集イベントにて、福井県立美術館ボランティアと楽しむアートツアーを岐阜県美術館アートコミュニケーターとともに担当
	通年	資料整理、新聞・事務、その他
2024年(令和6) 令和6年度 総登録者数20名、 活動日延べ人数256名	5月	「横山大観展」の親子鑑賞会に協力
	10月	「菱田春草展」の親子鑑賞会に協力
	通年	資料整理、新聞・事務、その他
2025年(令和7) 令和7年度 総登録者数20名	1月	30周年を迎える
	7月	1泊2日でPLAY! MUSEUM「大どろぼうの家」展、産業活性化拠点「HOME/WORK VILLAGE」、横浜美術館「佐藤雅彦展」を視察、研修会を開催(7/27-28、5名参加)
	11~12月	「大どろぼうの家」展の関連イベントを開催 「管理人が案内する大どろぼうの家の種明かし」「どろぼう絵本の読み聞かせ会」「大どろぼうも愛用、風呂敷包みワークショップ」「宝物はここに 千両箱づくりワークショップ」「かくされたハートをさがせ!ハートどろぼう大作戦」、館外出張イベントとして、福井西武店、藤の屋文具店、新栄商店街コジナガヤの3箇所にてクイズラリー「かくされたハートをさがせ!ハートどろぼう大作戦」を開催
		「30周年のあゆみ」を発刊

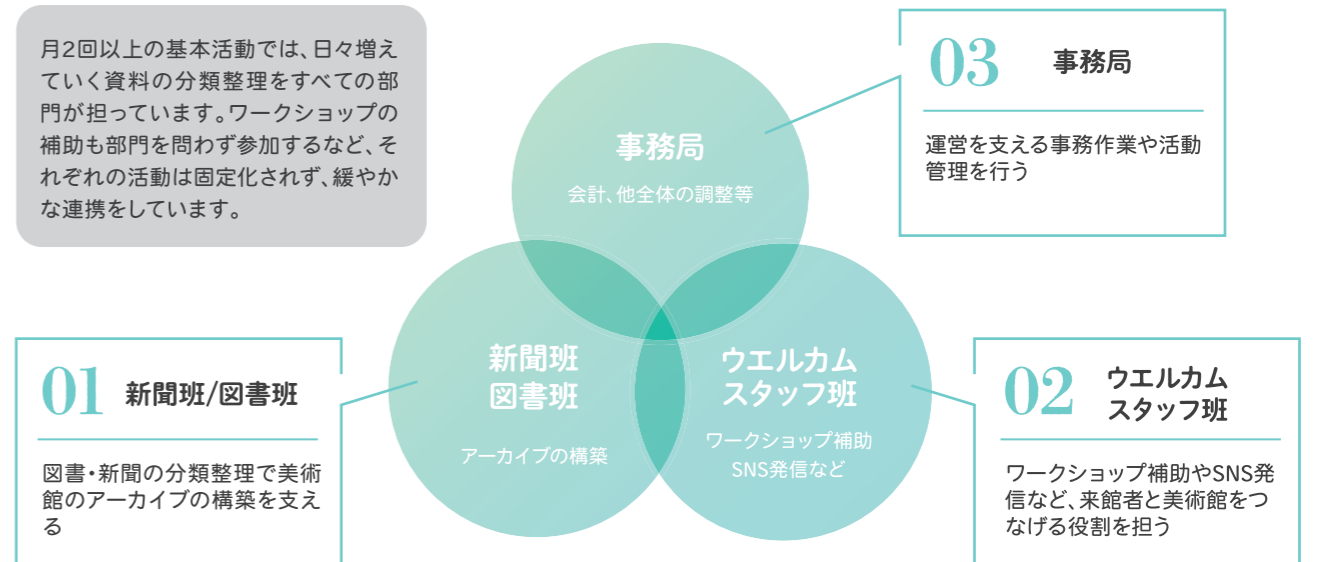
30 Years of Memories:  
Fukui Fine Arts Museum  
Volunteer Association

# 福井県立美術館ボランティアの会 会則

- 名称 第1条 本会は、福井県立美術館ボランティアの会と称する。
- 事務所 第2条 本会の事務所は福井県立美術館ボランティアルームとする。
- 目的・理念 第3条 本会は、来館者の多様化するニーズに応え、県民に「愛され親しまれる美術館」を目指すことを目的とし、平成8年1月に設立する。  
来館された方々に快適に過ごして頂くことを喜びとし、年齢・社会経験の差異を超えて多くの人たちと「夢」を実現する活動であること、社会や人の為だけのものではなく、自分自身が「豊かに生きていくため」の手段とすることを活動理念とする。
- 活動内容 第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の活動を実施する。  
(1)基本活動 「新聞切り抜き」「図書整理」等、美術館のアーカイブ構築を支える活動については、会員全員が参加する。  
(2)自主活動 「教育普及」「SNS発信」など、基本活動を充実するための活動であり、希望する会員が参加する活動。
- 会員 第5条 本会の会員は、美術館のボランティア活動を希望し、会の目的・理念を理解し、以下の要件を満たす者とする。  
また、会員の期間は1年とする。  
(1)高校生以上の方  
(2)月2回以上の活動が可能の方  
(3)ボランティア保険に加入された方  
(4)ボランティア説明会を受講された方  
(5)1年ごとの会員登録手続きを更新された方
- 入会 第6条 会員として入会しようとする者は、入会申込書を福井県立美術館に提出し、承認を得るものとする。
- 会費 第7条 会員ごとに年額1,000円とし、登録時に納めるものとする。
- 交通費の支給 第8条 会員への交通費の支給は福井県立美術館のボランティア旅費の限りとする。  
2 支給の条件は、月2回活動していること、往復の最短距離が2キロ以上であることとする。ただし、月3回を超える分は不支給とする。
- 退会 第9条 会員は、退会届を福井県立美術館に提出することにより任意に退会することができる。
- 役員 第10条 本会に次の役員を置く。  
(1)代表 1名  
(2)事務局長 1名  
(3)会計 1名  
(4)監査 1名  
2 第1項に定める役員は会員の互選により選出する。
- 職務 第11条 代表は、本会を代表し、その事業を総括する。  
2 事務局長は代表を補佐し、これに事故あるときまたは欠席のときは、その職務を代行する。  
3 会計は、会の会費、その他事業にかかわる財産を管理する。  
4 監査は、会の会計を監査する。
- 会計 第12条 会の経費は会費の収入をもってこれにあてる。  
2 会の事業年度及び会計年度は毎年4月1日に始まり3月31日に終わる。
- 総会 第13条 本会の総会は、会員を持って構成し、必要があるときに開催できるものとする。  
2 総会は、以下の事項について議決する。  
(1)会則の変更  
(2)活動の変更  
(3)活動報告及び収支決算  
(4)役員を選任または解任  
(5)解散  
(6)その他会の運営に関する重要項目  
3 総会は会員の過半数の出席がなければ開会することができない。  
4 第2項に定める議決は出席者の過半数の承認を以て決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
- 附則 1 この会則は、平成28年4月1日から施行する。  
2 令和7年4月1日より、本改訂版を施行する。

# 活動の紹介

福井県立美術館ボランティアの会は次の3つの部門で組織されています。



# ボランティア会員数推移

年度	人数	備考
平成8年	132	
平成9年	104	
平成10年	100	
平成11年	80	
平成12年	90	
平成13年	88	
平成14年	75	
平成15年	81	
平成16年	79	
平成17年	90	10周年
平成18年	111	
平成19年	103	
平成20年	98	
平成21年	86	
平成22年	79	15周年

年度	人数	備考
平成23年	81	
平成24年	87	
平成25年	73	
平成26年	78	
平成27年	59	20周年・一旦解散
平成28年	13	新規募集
平成29年	17	
平成30年	18	
令和元年	18	
令和2年	15	
令和3年	20	
令和4年	21	
令和5年	23	
令和6年	17	
令和7年	20	30周年

# 「大どろぼうの家」展関連イベント

令和7年1月で30周年を迎えた福井県立美術館ボランティアの会の記念事業として、大どろぼうの家実行委員会(福井県立美術館、FBC)主催の「大どろぼうの家」展で、ボランティア主催の各種イベントを開催しました。準備にあたっては担当学芸員とボランティアの会会員が前会場に視察に行き、大どろぼうの家を分かりやすく見せる仕掛けとして、スタンプラリーや種明かしトークを企画しました。プレゼントとして準備した「大どろぼう」の名刺も来館者に大変喜ばれました。

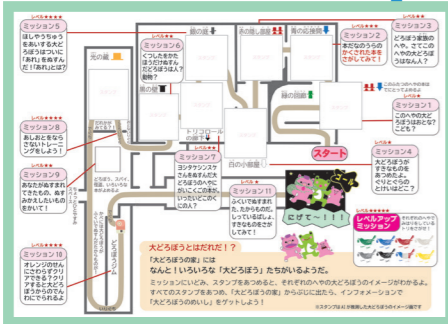


プレゼントの「大どろぼう」からの名刺

## 大どろぼうの家スタンプラリー



「大どろぼうの家」スタンプラリー台紙



8つの部屋のそれぞれの大どろぼうをイメージしたスタンプを集めるスタンプラリーを開催しました。すべてのスタンプを集めた来館者には「大どろぼう」の名刺がプレゼントされ、大変喜ばれました。

開催日 令和7年11月22日(土)～令和8年1月12日(月・祝)

参加人数 28,716名

## かくされたハートをさがせ！ ハートどろぼう大作戦

「大どろぼうの家」の隠されたハートを「ハートどろぼう」のみんなで見つける本イベント、1月4日はクイズラリーも交えて行いました。

### かくされたハートをさがせ！ハートどろぼう大作戦

講師 佐々木美帆(福井県立美術館学芸員)

開催日 令和7年11月29日(土)午後3時～、  
令和8年1月4日(日)午前11時～ 各回30分程度

参加人数 145名

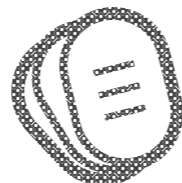


## 宝物はここに 千両箱づくり ワークショップ

講師 内藤秀信(ごじら工房)

開催日 令和7年12月27日(土)  
①午前10時～ ②午後1時30分～ 約1時間程度

参加人数 32名



## 管理人が案内する、 大どろぼうの家の「種あかし」

福井県立美術館にある「大どろぼうの家」には、8つの部屋にそれぞれ異なるどろぼうがいるという噂が。館内をよく知る管理人が、家の中の様子を「種あかし」しながら、皆様を安全にご案内しました。

管理人 佐々木美帆(福井県立美術館学芸員)  
加藤敬子、浅原寛子、竹内朋美、山川みか子、塚谷弘美  
(福井県立美術館ボランティアの会会員)

開催日 令和7年11月23日(日)、11月24日(月・祝)、11月29日(土)、11月30日(日)、  
12月6日(土)、12月14日(日)、12月20日(土)、12月28日(日)、  
令和8年1月10日(土)、1月11日(日)各回午前11時～ 20分程度

参加人数 258名



## どろぼう絵本の読み聞かせ会

「すてきな三にんぐみ」など、どろぼうをテーマにした読み聞かせ会を行いました。

読み手 梅田悦世(日本朗読検定協会 読み聞かせ講師、エテュード朗読教室主宰)

開催日 令和7年12月6日(土)、12月7日(日)、12月28日(日)  
午後2時～ 各回約20分程度

参加人数 145名



## 大どろぼうも愛用 風呂敷包みワークショップ

風呂敷について歴史から、日常に使える包み方まで幅広く学びました。

講師 山本瑞恵(瑞乃和)

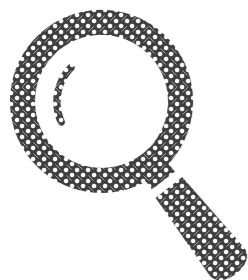
開催日 令和7年12月14日(土)午後3時～4時

参加人数 17名





# かくされたハートをさがせ！ ハートどろぼう大作戦 クイズラリー



まちなかの5か所に設置されたハートに書かれた文字を集め、モナリザを盗んだ大どろぼう「ペルージャ」を探し当てるクイズラリーを実施、ゴールではハートチョコとどろぼう名刺がプレゼントされました。

スタッフ 福井県立美術館ボランティアの会

開催日 令和7年12月20日(土)午前10時～午後3時

場所 西武福井店、藤の屋文具店、コノジナガヤ(シェアホール)

参加人数 150名

## スタート地点

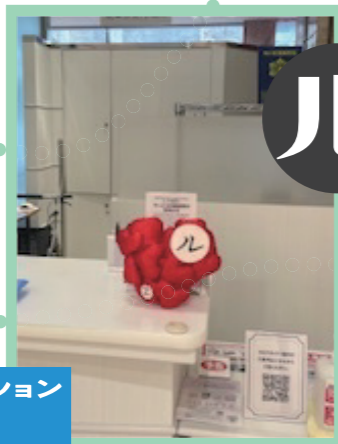
1階お菓子売り場「ペ」西武福井店  
エレベーター前にて  
クイズラリー台紙を配布



## 1階お菓子売り場「ペ」



## 1階インフォメーション「ル」



## 7階エスカレーター前「一」



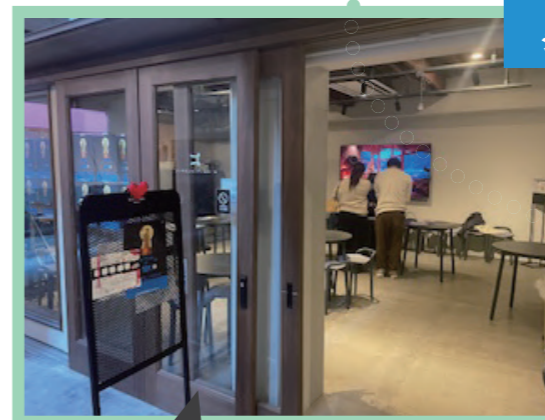
## 藤の屋文具店「ジ」



## 新栄商店街へ 誘導するポスター



## コノジナガヤの シェアホール外観



## ゴール地点

## ゴールで プレゼントをもらう親子



答えはモナリザを盗んだ  
大どろぼう  
「ペルージャ」でした！



# 30周年に寄せて 会員の想い

## 事務局長 竹内 朋美

出会い、別れ、そして多くの発見に満ちた10年でした。2015年、再構築されたボランティアの会への入会と同時に事務局を引き受け、新たな仲間を迎えては別れを惜しむという「新陳代謝」を繰り返しながら、ここまで歩みを進めてきました。活動内容は多岐にわたり、浴衣での観覧会や、SNSの活用、親子鑑賞会では鑑賞前の動画制作に取り組むなど、新しい試みに胸を躍らせながら過ごした日々が印象に残っています。

また、岐阜県美術館のボランティア組織「ながラー」の皆様との交流は、大きな刺激となりました。福井県美ボランティアにはない、「自ら楽しみながら美術館で遊び、その楽しさを市民へ伝える」という姿勢に触れ、「こんな風に活動を楽しめたら素敵だな」と感じたことを覚えています。

今回の30周年事業は、「『大どろぼうの家』展を福井で開催するとしたら、どのようなイベント企画が可能だろうか」という問いから始まりました。担当の佐々木学芸員とは展覧会の全体像を話し合いながら、展覧会の視察や今後のリニューアルを見据えた先進館の視察を盛り込んだ行程を計画しました。視察の道中では、参加メンバーとともにブレインストーミングを行い、全体のイベントプログラムの骨子を組み立てていく佐々木学芸員、そして多彩なアイデアを持つメンバーの意見を聞きながら、「きっと充実した企画になる」と期待が高まってきました。

開幕後の「種明かしトーク」や西武福井店との連携イベントでは、視察メンバーを中心に多くのボランティアが活躍し、無事に大役を果たすことができました。当初の目標を大きく上回る来館者数で閉幕を迎えたことは、事務担当としての経験の中でも、ひときわ輝く思い出です。この一連の取り組みを通じ、「自分たちの手で楽しさを創り出せる」という手応えを得られたことは、私たちの大きな財産となりました。

今後の10年、ボランティア活動がどのような方向へ進むのかは未知数ですが、メンバー一人ひとりが持つ強みを活かし、新たな挑戦に取り組める会であり続けることを願っています。

## 浅原 寛子

2021年、仕事を辞めて時間ができたのをきっかけにボランティアを始めました。素敵なお仲間とともに新聞班として楽しく活動させてもらっています。また、イベントのお手伝い、東京や岐阜など県外の美術館研修への参加、作家さんのお話を間近で聞けるなど、貴重な体験もありがたく思っています。これからも気負わず、楽しく、ゆるゆると息の長い活動を続けていけたらと思います。

## 江端 佳代

図書班配属です。図書班の活動を通して、全国の美術館の企画や活動などを知ることができ、ますます美術館に興味を持ちました。これからもボランティアの活動を楽しんでいきたいと思っています。

## 小林 里江

新聞班として活動させていただいております。活動を通して美術館がこれまで以上に身近な存在となりました。子どもと美術館に行く機会が増えた事も、とても嬉しく有難く感じています。仕事の予定と重なるなどして、活動に参加できない時も多くある中、お仲間のみなさんとの繋がりで続けさせていただいております。

## 伊藤 智子

新聞班8年目です。いつも皆さんと楽しくお喋りしながら活動しています。令和5年岐阜県美術館の『ナンヤローネ アートツア-《Such Such Such》』に参加し、岐阜の方々と温かい交流が出来たことが心に残っています。今後も楽しく活動していきたいです。

## 加藤 敬子

100人以上の受講者で講堂がいっぱいだった最初の研修時から30年、そんなに時が経ったなんて驚くばかりです。インフォメーションや企画展監視、企画展主催者への取材、日帰りバス旅行の計画実行等、振り返れば色々経験させて貰った事を懐かしく思い出しました。今回の節目の企画展、家族連れが多く大入りで無事終了しホッとしました。これからも、多くの方に身近に感じられる美術館であって欲しいです。

## 米谷 美保

活動を通じて、美術館をより身近に感じることで、私の人生がとても豊かになりました。学芸員さんやボランティアメンバーの方々の良いご縁に恵まれ、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、美術館の良さ、所蔵品の素晴らしい価値を、県民の皆さまにお届けしたいです。

## 佐孝 美也子

金津創作の森の制作ボランティアに参加して、そこで教えてもらった県美ボランティアに参加しました。学芸員さんの解説を聞くことができるのは、とても魅力的で、菱田春草展は会期中何度も作品に会うことができました。また作業しながらの皆さんとの会話やアート情報などもとても楽しみです。

## 中村 美詠子

新聞班所属です。多様な情報が得られると思い参加しましたが、予想以上に全国各地の美術展や作品や出来事を知ることができました。今後も充実した活動を続けていきたいと思えます。

## 前田 圭子

平成19年より参加し、当初は受付や監視業務を、現在は新聞切り抜きやイベント補助などを担当しています。解説会への参加や学芸員・館スタッフの皆さまとの交流を通じ、多くの貴重な経験をさせていただいていることに、心より感謝しています。

## 松田 育枝

30年ですか…。ここに来たお陰で学べたことが一杯あります。それがとても嬉しいですね。

今は、新聞班で活動しています。終わるといつもあたふたと帰ってしまうので、時にはまた館蔵品をゆっくりと鑑賞したいです。良いものが沢山ありますから。

## 望月 孝子

幼い子どもを連れて鑑賞に訪れた折に、声をかけていただいたのがきっかけで、活動を始めました。

美術館関連の新聞記事を切り抜きしたり、展示の解説会に参加したり、とても有意義な時間を過ごさせていただいております。活動を通して、福井の美術史や、いろいろなことを知る機会に恵まれ、知人友人も増えました。今後もよろしく願います。

## 山口 ふみ江

平成23年に県立美術館ボランティアに入会、今年(令和7年)で15年になります。1カ月に2回、図書班として活動しています。学芸員さんの解説を聞いてから展覧会を観ると、観方がより深まりを増すよう、また違った感じ方になるような思いがします。

## 30 Years of Memories, Fukui Fine Arts Museum Volunteer Association

## 塚谷 弘美

令和3年から新聞班で活動しています。活動して益々美術が好きになり以前より身近なものとなりました。とても楽しく作業しています。

## 林田 由香里

2024年の夏より図書班のボランティアとして参加させていただいております。全国から送られて来る図録や資料で観たことがない作品等を目にすることができてとても勉強になります。大切な資料の整理が美術館の運営の一助となるよう、楽しみながら取り組んでいきたいと思えます。

## 牧田 喜代

活動は概ね17年です。入会時は緊張のインフォメーション、睡魔との戦いの会場監視活動があったのも懐しい。皆さんと美術の話で盛り上げられる貴重な時間になってます。もう暫く続けていきたいと思えます。

## 宮崎 絵美

美術館ボランティア活動を通して、作品の魅力はもちろんのこと、人と人との繋がりがや関わりが、美術館のあたたかい雰囲気をつくっていることを感じることができました。

美術館で過ごした時間や経験は、自分にとってこれから先もずっと心に残り続けるものになると思います。

そして、美術館ボランティアで得た経験を大切にしながら、これからも多くの人に親しまれる場所(美術館)であり続けることを願っています。

## 山川 みか子

この会でボランティア活動をしていなかったら出会えなかった人たちと、アートを介してほんのひととき時間を共にすることで得られる喜びを楽しみに、これからも活動を続けていければと思います。

## 吉岡 直子

定期的に美術館に行く事で、展示物を見たり、情報を得たりできるのが嬉しいです。学芸員さんの解説を聞く事ができるのも、とても楽しみです。リニューアルされる美術館が魅力いっぱいになりますように…。



今井俊介「untitled」  
平成30年 福井県立美術館蔵  
福井県立美術館ボランティアの会寄贈

福井県立美術館ボランティアの会  
30年のあゆみ

発行 令和7年12月  
福井県立美術館ボランティアの会  
福井県福井市文京3丁目16-1  
TEL:0776-25-0452  
FAX:0776-25-0459  
印刷 白崎印刷株式会社

表紙の「untitled」、裏表紙の「untitled」はともに、令和元年に開催された「Reborn ～未来へのアップデート～Ⅱ未来を発明」（福井県立美術館）出品作。「untitled」は福井県立美術館所蔵の西山真一《憩》にインスパイアされて制作された。